

第 216 回市民医学講座

平成 3 年 3 月 14 日 (木)

仙台市役所上杉仮庁舎 6 階

第 1 会議室

花粉症について

矢尾板耳鼻咽喉科院長

矢尾板範子

花粉症というのは、花粉が原因で起るアレルギー疾患です。従いまして、くしゃみ、鼻みず、鼻づまり、目のかゆみといった鼻や眼の症状だけではなく、ひどくなりますと皮膚症状、消化器症状、めまい、はきけ、さらに発熱にいたる多彩な全身症状を呈するようになります。ただ花粉と最初に接するところが鼻や目ということで、その局所の症状が激烈なために、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎という診断をうけます。花粉の飛び散る期間が限られることもあり、全身症状に移行しないでおさまってしまうのが花粉症の現況だろうと思います。実はこの花粉症は今から 160~170 年も前、イギリスより枯草熱として発表されております。牧草の刈入れ時、鼻や目の症状のほか発熱もあり、それがイネ科の植物の花粉が原因だということが明らかになっております。

その後アメリカのブタ草花粉症が問題になりましたが、当時日本では全く発生しておりませんでした。日本で問題になるのは、昭和 36 年の千葉のブタクサ花粉症からです。その後毎年増加の一途をたどり、昭和 50 年以降のスギ花粉症の大量発生ということになります。スギ花粉症は毎年激増し、社会問題となって参りました。このスギ花粉症増加の背景には、花粉の絶対量が多くなったこと、生活環境の変化、大気汚染等が考えられます。

戦後の林業計画によってさかんに杉が植えられました。現在人工林の 45%が杉、23%がヒノキで占められ、しかも樹齢 20~30 年という花粉をつけ易い年代に入っていること、さらに気候の温暖化現象が花芽の発育を助長させていること、それから食生活における蛋白摂取量の増加、住宅の欧風化、さらにジーゼル車の急増、アスファルトの道路など、本来落下した花粉は土の中に吸収されるべきところ、落ちてくるところを失い、排気ガスと共に常時空中に飛散していることになります。それが呼吸と共に鼻や眼の粘膜に附着し、そこでアレルギー反応を起すということになります。このアレルギーというわけのわからない言葉は、ギリシャ語の“変化した反応能力”という意味で、皆様が考えていらっしゃるような、細菌やウイルスの感染によりだんだん組織がおかされていくというような、普通の病気とは全く成因の異なるものなのです。

本当に人間は実に驚くべき反応能力を持っております。私達の身体には生体防禦作用があり、自己の成分と異った物質(抗原)が入ってきますと、これを入れまいとする防御反応がおこり抗体をつくり出します。そして再び抗原が入って来ますと、抗原抗体反応という防禦御反応を起すのです。この反応が体に都合のよい方向に向うのが免疫といいまして、はしかや風疹などの様に一度病気になると 2 度と罹らないという非常に有益な反応ですが、

一方この抗原抗体反応が都合の悪い方向に向うのがアレルギーなのです。しかしこのアレルギー反応は、これを抑制する遺伝子を持つ人と持たない人がありまして、持たない人だけがアレルギーをおこしてしまうわけです。

この反応はマスト細胞という特殊な細胞の表面で起こりますが、この反応によって、この細胞の中からヒスタミン、ロイコトルエン、PAFetc.などの化学物質が出て参ります。これらが鼻粘膜の神経終末に働き、かゆみやくしゃみを起します。さらに自律神経中枢を介して鼻の分泌腺につながり、水の様な鼻汁が出て参ります。一方直接血管に働き血管の透過性を高め鼻粘膜の浮腫が生じ、アレルギー症状がそろうわけです。

この様に花粉症はまずくしゃみ、鼻みずが出ますので、患者さんが私どもにいらっしゃる時には、風邪が治らないとって来られる方が多いです。風邪と花粉症の違いは、症状が長びき、毎年同じ時期にくり返すことです。現在花粉症の原因になる花粉は40種ほどといわれておりますが、その原因花粉により症状の出る時期が異なるわけです。従いまして症状の出る季節や場所によって、何が原因であるかは予想出来ます。

しかし治療ということになりますと、まず原因をはっきりさせなければなりません。しばしば花粉以外の原因でも同様な症状が生ずるからです。

現在は皮膚テストや血液の検査などで比較的簡単に原因検索が出来ます。原因がわかれば治療ということになりますが、花粉症の治療はまず予防からが原則です。花粉予報に気をつけ、体の中に花粉を入れない工夫をすることから始めなければなりません。警戒日の外出は出来るだけさけ、窓はしめておく、外出時にはマスク、めがねなどをおすすめします。予防薬としては抗アレルギー剤を2週間ほど前より服用することでずい分症状はおさえられます。発症時の対症薬としては抗ヒスタミン剤、ひどい時には副腎皮質ホルモンなども用いられます。外用の副腎皮質ホルモンは副作用の心配もなく使用出来ます。いずれにせよお薬の効果は人によっても症状によっても異なります。服用する時間帯も考えなければなりませんので、その点主治医とよく相談し、出来るだけ効果的な対処をしなければなりません。